女性の家 HELP
Network News
ネットワーク ニュース
2016/6/15
No. 79

聖句

「神は言われた。「光あれ。」こうして、光があった。」
創世記１章３節

1986―2016　女性の家 HELP30 周年

今年も暑い夏がやってきました。ＨＥＬＰの小さい庭にも季節の花が彩っています。テラスから見上げる空には白い雲が流れていきます。矯風会の長い歴史の流れにつながってＨＥＬＰが生まれ３０年になりました。この間多くの方のお支えがあったことを心から感謝申し上げます。総てが整わないときから、法律、臨床心理、児童教育などを専門とする方がた。衣食住の心配をしてくださったボランティアの方。多くの皆様からのご献金。どれを欠いてもなし得ない事業を継続することができました。いま民間シェルターは厳しい経営状況に置かれています。どうぞこのことをご理解下さいまして一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

川野　安子(理事長)

2016年は、女性の家 HELPが創立30周年を迎える年である。30年前、日本でアジアからの女性たちが多数性産業で働いていた社会情勢の中、彼女たちの「駆け込みセンター」として女性の家 HELPはその産声を上げた。それは、矯風会の100周年記念事業であり、時の社会情勢に対する先達の矯風会員たちの応答でもあった。開設当初の利用者には、売春強要されていた外国籍女性、暴力被害にあった日本人女性、居所のない女性や子どもたちなどが含まれ、今日までに女性の家 HELPが受け入れた女性や子どもたちは5,249名(子ども1,303名）に達する。外国籍女性の出身国は、58か国に及ぶ (2016年3月末)。
これらの女性や子どもたちの衣食住を、ひとりひとりに対してはたとえ短期間とはいえ、支えることが出来たのは、理事長ご挨拶にあるような多くの方々や国内外の関係機関・団体等のおかげと感謝の気持ちでいっぱいである。
30年の間、女性や子どもたちを取り巻く社会状況は大きく変化し、その直面する課題も変容してきた。また、女性の家 HELPの運営母体である日本キリスト教婦人矯風会自体も、財団法人から公益財団法人へと組織の形を変化させ、その過程で生じたさまざまな課題を抱えている。それらは、今日の女性の家 HELPのあり方に少なからず影響を及ぼしている。

しかし、そのような変化の中で、変わることなく守られているものがある。それは、女性の家 HELP職員の頭と心を常に離れず問われ続けられている問いである。具体的には、家族や友人に頼れず、心身共に困窮した状況で HELPにいらした方々に、私たちは何ができるのか。その方々が「HELPにいらした甲斐」をどのように創っていくことができるのかという問いである。それは、短い滞在期間の間にも日々変化する女性たちの求めへの応答でもあり、間接的には、女性の家 HELPの活動を支えて下さる方々から私たちに託された想いへの応答でもある。
同様に、女性や子どもたちを受け入れる施設としては、組織としてどのようにそれらを可能にするふさわしい環境づくりをするかが求められているのである。
シェルターという住所非公開の施設であるがゆえに、また、応援をして下さる方々にさえ、五感に訴える十分なご報告の行き届かないことを申し訳なく思っている。
今年度の新しい歩みが、私たちの受け入れる女性や子どもたちの回復と笑顔に結びつくよう皆様の変わらぬご支援をお願い申し上げます。

坂間治子(女性の家 HELP 主任支援員)

外国籍妊娠女性の滞在長期化と
行き場の決まりにくい周産期の単身若年女性

2015 年度の HELP 利用者は、外国籍女性 16 名、日本国籍女性 67 名、同伴児 17 名の合計 100 名であり、総宿泊数は 2115 泊（前年度比 99.8%）であった。年間を通して、週 1 回のミュージックセラピー、月 1 回の手芸教室を実施したが、それ以外のプログラムは、予算の都合で縮小せざるを得なかった。
DV 被害女性の安全確保等のため、HELP スタッフが医療機関へ同行した割合は、全入所者では 15.8%（前年度は 20.32%）と減少傾向であるが、外国籍入所者では 29.6%（前年度 50%）と全入所者に比べ高率であった。

< 外国籍女性 >

外国籍女性総数 16 名のうち、子ども連れは 4 名おり、同伴児は 6 名であった。子どもの年齢は、全員が 6 歳未満の未就学児である。
入所理由の第 1 位は DV（50.0%）で、続いて妊娠女性（37.5%）、ホームレス（12.5%）である。妊娠女性の占める割合は、2013 年度の 3%から昨 2014 年度の 25%へと大幅な増加傾向にあったが、2015 年度に至っては全外国籍入所者の約 5 人に 2 人となった。
外国籍全体の平均滞在日数は 27.14 日である。2014 年度は、制度の狭間に落ちてしまい、問題解決に長期を要した入所者がいたため格別に滞在日数は増えたが、2013 年度と比べても若干伸長しているのは、妊娠女性の滞在期間が長くなりがちだからである。

また、言語的・文化的には外国籍同様でありながら、国籍としては日本国籍のため、この分類にカウントされない入所者が増加傾向にあることは特筆しておきたい。

● DV 被害者…2015 年度に、近県から依頼された DV 被害者の多くは、日本語をほとんど解さず、通訳を必要とする母子であった。依頼自治体により、通訳者を確保することのできた場合、できなかった場合があり、被害者への情報提供の量や内容に差異が生じた。十分な情報提供を受けた女性たちは、少しづつ安心して新しい生活へのイメージ作りができたが、HELP の再三の要請にも関わらず、通訳者を得られなかった女性は、不安を払しょくできぬまま支援中断となった。
単身女性の場合は、言葉の問題もあり、次の施設に移るまでに相当の時間を要した。

● 妊娠女性…2015 年度に受け入れた妊娠女性は、ほとんどが妊娠後期であった。そのため、滞在期間は出産前の施設へ移る直前までと長期化し、医療スタッフの配置のない当施設には、重い負担となった。日本での出産や出産後の子育て等に関する情報提供は、HELP 滞在中に期待される支援であるが、そのために母語の通訳者が確保されることは少なく、DV 被害者と比較して、母語支援について劣位に置かれていると思われる。

● 居所無し…2015 年度に受け入れした女性の滞在は、比較的短期であり、在留資格は「短期滞在」や「定住」などである。
● 退所者へのケア…2015 年度は、他団体との協力の下、お花見等の季節行事を実施した。また、昨年度復活した夏の海水浴は、引き続き高校生ボランティアの協力を得て、今年も子どもたちに「忘れられない一日」を提供することができた。加えて、退所者の居場所づくり、外国籍の女性に対する本国での離婚手続き支援などを継続して行っている。

< 日本国籍女性 >

日本国籍女性は 67 名、うち子ども連れは 9 名であった。入所理由は、例年通りホームレスが 47.8% と最も多く、次いで DV(夫・恋人からの暴力) が 23.9%である。その後、妊娠（14.9%）、家族からの暴力（10.4%）、その他（3.0%）と続き、前年度に比べ、家族からの暴力と、妊娠女性の利用割合は微増している。
2015 年度の特徴としては、妊娠や周産期の女性に未成年を含む若年女性が多いこと、また、「単身」での利用でありながら、入院中の乳児や児童相談所で一時保護中の児童と母子統合を目指しているなど、複数の関係機関と調整中の方が少なくないことである。
平均滞在日数は約 21.2 日（昨年度より 1 日強短縮）と高止まり傾向にある。DV 等緊急性・危険度の高い方ばかりでなく、昨年同様持病持ちで療養中の中高年者や若年で出産前後の方等、宿泊所としての機能を必要とする方もいらした。

< 電話相談 >

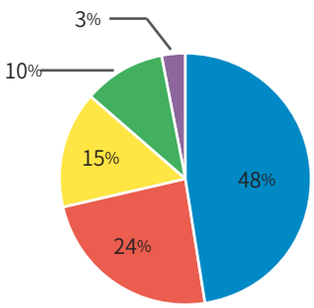
2015 年度の電話相談は、日本を含む 36 か国の方から、786（前年度比 113%）に上る相談項目について相談があった。電話相談に関係する国籍数が増加していることから、日本に定住する外国籍の多様化が進み、相談ニーズは国籍を問わず高まっていると考えられる。
外国籍電話相談の内容は、「家族滞在」「留学生」等、生活保護準用範囲外の在留資格を持っている方に関する相談が増えている。
また、日本人の電話相談には、DV や性虐待経験に伴う信頼関係を構築することの難しさを訴える電話に加え、マイナンバー制度導入前後の不安や運用方法に関する問い合わせ等が含まれている。

2015 年度統計表

利用者内訳

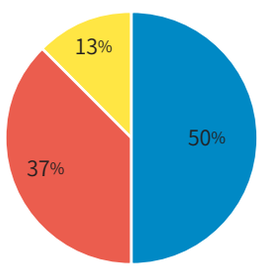
2015 年 4 月 1 日～2016 年 3 月 31 日

日本国籍



ホームレス	32 人
夫・恋人からの暴力	16 人
妊娠	10 人
家族からの暴力	7 人
その他	2 人

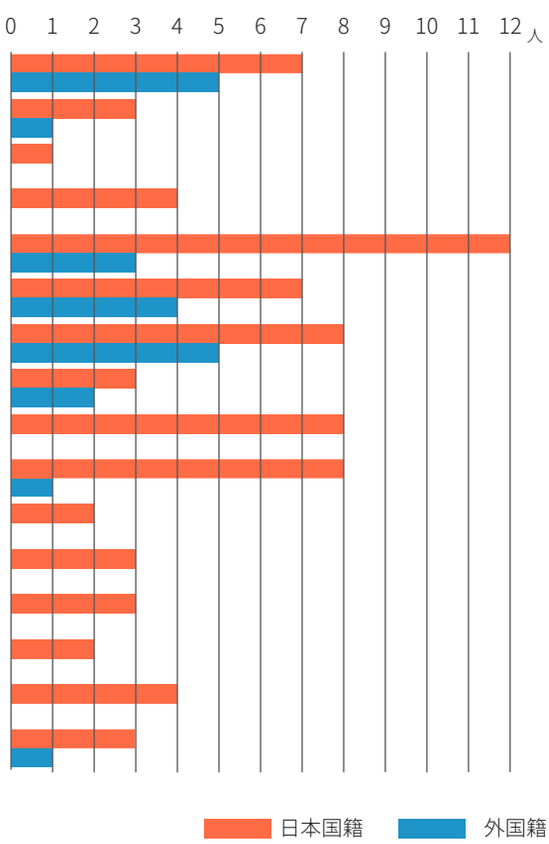
外国籍



夫・恋人からの暴力	8 人
妊娠	6 人
ホームレス	2 人

利用者年齢分布

	日本国籍	外国籍
0 ― 5 歳未満	7	5
5 ― 10 歳未満	3	1
10 ― 15 歳未満	1	0
15 ― 20 歳未満	4	0
20 ― 25 歳未満	12	3
25 ― 30 歳未満	7	4
30 ― 35 歳未満	8	5
35 ― 40 歳未満	3	2
40 ― 45 歳未満	8	0
45 ― 50 歳未満	8	1
50 ― 55 歳未満	2	0
55 ― 60 歳未満	3	0
60 ― 65 歳未満	3	0
65 ― 70 歳未満	2	0
70 ― 75 歳未満	4	0
75 歳以上	3	1
合計	78	22



HELP 国籍別滞在者数

（2015 年 4 月 1 日～ 2016 年 3 月 31 日） 昨年度から年度をまたいで滞在した者を含む

HELP 国籍別滞在者数

国籍	女性	同伴者
日本	67	11
フィリピン	5	1
タイ	1	1
中国	1	2
韓国	1	0
ミャンマー	1	0
ネパール	1	0
スリランカ	1	2
ケニア	1	0
コンゴ	1	0
ウガンダ	1	0
カメルーン	1	0
イギリス	1	0
合計	83	17

日本国籍女性 **67** 人
その内同伴者のいる女性は **9** 人

外国籍女性 **16** 人
その内同伴者のいる女性は **4** 人

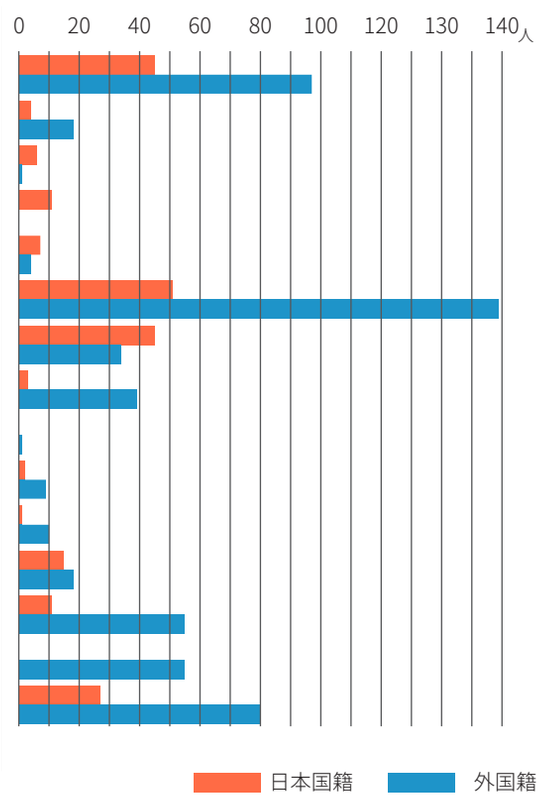
外国籍利用者地方別内訳

出身地	人数
東京	12
埼玉	1
千葉	1
福島	2
合計	16

電話相談項目件数

内容別

	日本国籍	外国籍
DV	45	97
家族からの暴力	3	18
人身売買	6	1
在留資格・入管関係	11	0
労働	7	4
一時保護依頼	51	139
情報提供	45	34
心の問題	3	39
結婚	0	1
離婚	2	9
結婚生活上の問題	1	10
子供のこと	15	18
ホームレス	11	54
常連	0	55
その他	27	80
合計	227	559



国籍別

国籍	件数
日本	559
フィリピン	79
タイ	43
中国	11
USA	9
ミャンマー（ビルマ）	7
ネパール	6
スリランカ	5
ウガンダ	4
カメルーン	4
ケニア	4
コロンビア	4
コンゴ	4
バングラディシュ	4
ペルー	4
インドネシア	3
フランス	3
イラン	2
インド	2
ウクライナ	2
ソマリア	2
パキスタン	2
レバノン	2
イギリス	1
エジプト	1
オランダ	1
韓国	1
ギニア	1
シンガポール	1
スーダン	1
ナイジェリア	1
ブラジル	1
メキシコ	1
ロシア	1
日本（母は外国籍）	1
不明	9
合計	786

利用者退所先

退所先	日本国籍	外国籍
施設	33	10
アパート	3	0
女性センター	12	2
帰国	0	2
帰宅	3	1
友人・知人宅	0	0
路上	0	0
入院	0	0
住み込み就職	0	0
不明	7	1
未定	4	1
その他	5	0
合計	67	16

外国籍利用者平均滞在日数

2011 年	29 日
2012 年	25 日
2013 年	23 日
2014 年	38 日
2015 年	27 日

国籍別宿泊数

日本	1545
外国籍	570
合計	2115

お知らせ

クリスマスおめでとうございます。
皆さま、お健やかにお過ごしでいらっしゃいますか？
今年も、HELP を支えて下さる一人一人のお力により
助けを求める女性や子どもたちへの支援活動が続けられますことを
心から感謝申し上げます。

2015 年度はこれまでに日本の他、フィリピン、タイ、中国、韓国、ケニア、
コンゴ、カメルーン、ウガンダ、ケニヤ、イギリス出身の女性 53 人と
赤ちゃんや子どもたち 10 人が
緊急時の居場所として HELP を利用され、
また悩みを抱える女性たちへの電話相談を継続しました。

家庭を築くに至らない若年層の妊娠、家族からの暴力、
子どもの養育等複合的で困難な状況の中で、
HELP を必要とする女性たちにふさわしい支援が届けられるように
スタッフ一同、努力を重ねております。

安全で安心できる“家”であり続けるために
ますますの住環境の改善が求められています。

こうした必要に応え、
HELP に与えられた社会的使命を全うするため、
クリスマス献金による HELP へのご支援を
何卒よろしくお願い申し上げます。

2015 年 11 月

公益財団法人　日本キリスト教婦人矯風会
女性の家 HELP 運営委員長　川野　安子
ディレクター　上田　博子

献金送付先
郵便振替口座：00110 - 5 - 188775
加入者名：女性の家 HELP